

Institute for Economic Studies, Keio University

Keio-IES Discussion Paper Series

教育志向とケア志向の就学前教育：子どもの発達への示唆

赤林英夫、ティム・ルーベルク、敷島千鶴、山下絢

2023年2月27日

DP2023-009

<https://ies.keio.ac.jp/publications/22477/>

Keio University



Institute for Economic Studies, Keio University
2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-8345, Japan
ies-office@adst.keio.ac.jp
27 February, 2023

教育志向とケア志向の就学前教育：子どもの発達への示唆

赤林英夫、ティム・ルーベルク、敷島千鶴、山下絢

IES Keio DP20XX-0XX

2023年3月26日

JEL Classification: C26, H75, I26, J13

キーワード: 就学前教育とケア, 子どもの発達, 操作変数法, 限界処置効果

【要旨】

本論文では、教育志向の就学前施設と保育志向の就学前施設の選択が子供の発達にもたらす因果効果を推計する。因果効果の推計に際して、日本において、異なるタイプの就学前施設の供給が、地域間や時間を通じて外生的に変動したことを準実験と見なした。推計の結果、教育指向の施設の利用は、算数・数学および国語のテスト得点、社会情緒面にプラスの効果をもたらしていた。また、限界処置効果 (MTE) 曲線から、教育志向の就学前施設を利用する確率が低い子供が、潜在的利得が最大であるという、本来あるべき配分と逆の選択が生じていた。この異質性は、教育志向の就学前施設の特徴 (教育志向、教育時間の標準の長さ、ピア効果) により生じていると推察される一方で、保育志向の就学前施設を利用することの利得はより均一であると推察される。

赤林英夫

慶應義塾大学経済学部

東京都港区三田2-15-45

hakab@econ.keio.ac.jp

ティム・ルーベルク

ホーエンハイム大学

Department of Economics, Schloss Hohenheim, 70593 Stuttgart, Germany

tim.ruberg@uni-hohenheim.de

敷島千鶴

帝京大学文学部心理学科

東京都八王子市大塚359

shiki@main.teikyo-u.ac.jp

山下絢

日本女子大学人間社会学部教育学科

東京都文京区目白台2-8-1

yamashitaj@fc.jwu.ac.jp